

箱根に思う

主幹教諭

中村昌子

新緑の美しい気持ちのよい季節となりました。5月の連休明けから、大泉でも遠足ウィークがスタートし、1～3年生の遠足、そして5年生の箱根移動教室までが終了しました。子どもたちにとっては、新しい学年になって、友達との絆を深める絶好の機会です。

さて、私は5月17日～19日の3日間、箱根移動教室に引率いたしました。2年前に大涌谷で水蒸気爆発があり、入山禁止規制などでこの間子どもたちの活動も制限されていましたが、今年はその規制も解除され、久しぶりに箱根山全山を満喫した移動教室となりました。なんとといっても、箱根移動教室は1日目の箱根旧街道わらじハイクからスタートします。4月後半からわらじ作りと格闘していた5年生ですが、みんな手作りのりっぱなわらじを履き、元気にスタート！…と言いたいところですが、どうも履き方の練習が足りなかったのか、わらじがすぐに脱げてしまい3歩歩いては止まり、5歩歩いては止まりといった感じの子どもたちが続出。そのたびに

グループの中で「大丈夫?」「私の予備、貸そうか?」などと声をかけ合い、助け合って歩く姿があちこちに見られました。なんともほほえましい姿です。途中ですれ違うハイカーの皆さんからは「あら、わらじ! すてきねえ。本物の旅人だ」などとお褒めの言葉をいただきました。そのたびに少し恥ずかしそうに、そして誇らしげに歩く子どもたちです。ゴール地点の芦ノ湖畔につくと、「ああ、現代にタイムスリップした!」と思わず呟いていました。わらじを編み始めてから、旧街道を歩き、芦ノ湖にたどり着くまでの時間は子どもたち一人一人の中にどんな物語を綴ってくれるのでしょうか。かつての旅人たちは宿場について、すりきれてしまったわらじを新しいわらじに履き替えるときには、わらじをただ捨ててしまうのではなく、宿場ごとに設けられている「わらじ塚」にわらじを納め、わらじへの労をねぎらったと言われています。苦労があったからこそ味わえるわらじへの感謝の気持ちや、友達への感謝の気持ちが子どもたちの大きな財産となることなのでしょう。2日目のフリータイムでも箱根の歴史、自然、文化様々な分野でグループごとに多くの箱根



の講師の先生方にお世話になって有意義な時間を過ごすことができました。そして、3日目の金時登山。お天気に恵まれない年もあるのですが、今年は真っ青な青空。素晴らしい天気の中、金時山山頂に、願いを込めた腹掛けを奉納してきました。金時山に登ると、外輪山の尾根がぐるっと見渡せて、40万年前に噴火してできた箱根



山の大きなカルデラの中に、大涌谷や芦ノ湖、そして現代の人間たちが楽しんでいる様々な施設が小さな箱庭のように存在していることが分かります。その自然のスケールの大きさは人間の歴史を遙かに超えたものです。自然のスケールの大きさと、先人たちの思いを同時に学ぶことのできる箱根。世界中からいらした観光客の姿も本当に多いと感じました。この箱根移動教室を経験した子どもたちが、日本の「箱根」の価値を世界の人々に発信する日がいつかくることを願っています。